

旭市水道事業運営協議会 会議概要

1 日 時 令和7年7月28日（月） 午前9時30分～午前10時50分

2 場 所 旭市役所本庁舎 4階委員会室

3 出席者

新行内 正巳 会長	出	向 後 裕 通 副会長	出	中 村 輝 彦 委員	欠
座 古 洋 平 委員	出	飯 島 菊 枝 委員	欠	宮 嶋 弘 美 委員	出
磯野 美智子 委員	出	伊 藤 壽 敏 委員	欠	小 橋 静 枝 委員	出
宮 穂 広 子 委員	出	平野 陽一朗 委員	出		

事務局（上下水道課）：向後課長、高木副課長、石田副主幹、品村副主幹
鈴木主査、山本主査、竹中副主査

改定業務委託受託者：(株)N J S 武井、日高

4 配布資料（事前配布）

- 1) 会議次第
- 2) 旭市水道事業長期計画 旭市水道事業ビジョン【素案】
- 3) 旭市水道事業長期計画 旭市水道事業ビジョン【概要版】
- 4) 旭市水道事業長期計画 旭市水道施設耐震化計画【素案】
- 5) 完成までのスケジュール ※当日配布

5 会議概要

- 1) 開会
- 2) 会長あいさつ
- 3) 市長あいさつ
- 4) 議事（議長：会長）

【議題】(1) 旭市水道事業長期計画（水道事業ビジョン・水道施設耐震化計画）素案について【諮問】

事務局より、配布資料2)～5)について説明

委 員：耐震化計画19ページ、配水池の耐震化の現状と令和16年度の数値が同じ。
前向きな感じが受けとめられない。
これについて、少し補足とか、目標まで同じ数字を並べた何か理由は。

議 長：関係する連絡管等が遅れるので、状態が動かせないということでは。

事務局：会長（議長）からあったように、旭配水場区域の縮減を図るため、3地域の配水区域の見直しを行い、最後に旭の配水池の検討を行いますので、16年度までの間では手をつけられないという推計になっています。

委 員：干潟配水場の増池も関係してくるのか。

事務局：今後算定に入れるが、位置、容量が決まらないため、時期については未定。

委 員：海上、飯岡の配水池の耐震化は。

事務局：済んでいる。

委 員：令和 12 年度の料金改定、財政状況から仕方ないと思うが、30%は大きい。
基本料金と超過料金であると思うが、どちらか一方、または両方なのか。

事務局：基本料金と超過料金一体で 30%。

委 員：説明の中では、5 年ごとに料金の見直しがある、後々のことを考えて最初に
上げるということでした、市民にしてみたら、大きいと思うが、30%の根拠
がありましたら教えてください。

事務局：現状のままですと、令和 12 年度に赤字に転落してしまう見込み。

支出の方が、維持管理部分と施設の更新費用、2 つがありまして、料金収入
で出た利益は、留保資金という形で補填財源として取っております。

それで更新費用に足りない分を充てているような状況でして、その分も、令
和 13 年度には足らなくなる見込みになり、今後充てて行く部分を維持して
いく面を含めると、30%です。

ただ、この計画で決定するものではなくて、水道ビジョンの見込みの中では、
30%の改定が必要ということなのです。

実際の料金改定については、また別に試算をし直し、改めて協議会とかを経
て決定していくというものですので、30%という数字を現時点では出してい
ますが、この計画で決定ということではないということに理解いただきたい。

委 員：旭の配水場、海上と飯岡、干潟からの自然流下という形にすると、電気代的
には効果があるのでしょうか。

事務局：動力費が何%とか、金額的なものは試算していないが、旭地域が、100%ポ
ンプ圧送しているような状況ですので、少なくとも、3 地域から自然流下で
運ばれる部分が導入されるだけでも、動力費の縮減は図れるということに
なります。

委 員：30%の料金の値上げ、その中には平成 30 年度に料金値下げとか、いろいろ
あって、こういうパーセントになってしまうということ。

事務局：おっしゃった通り、1 度下げた経緯があります。

その料金から現在まで、ずっと運営をしておりますので、その下げたときの
金額のままで行っていた場合、令和 12 年度赤字になりますし、令和 13 年
度に補填財源が足らなくなりますので、30%必要という試算になりました。

委員：(水道事業ビジョン) 42 ページ、第 6 章の文章の中で、最後の下から 5 行目辺り、今後も必要に応じた見直しなどのフォローアップを実施していくのが重要ですよと書いてあって、また、その下、今後も、計画実行評価を繰り返すことを云々と書いてある。

フォローアップを実施していく後に、また今後もと書いてある。

下 3 行はいらないじゃないのか、この辺どうでしょう。

事務局：言葉の重複、ご指摘のとおりだと思います。

もう一度検討します。

委員：(水道事業ビジョン) 39 ページ、財政計画が載っていますけれど、令和 6 年度、令和 7 年度推計、なぜ、推計という形で取ったのか。

今、令和 7 年度で予算執行してやっている、令和 6 年度は決算見込み数値を書くべきではなかったか。

事務局：令和 6 年度については、決算の方がまだ認定されていないような状況でして、推計という形。

7 年度につきましたの推計というところは、ほぼ予算値という形で掲載をさせていただいた。

委員：これからパブリックコメントの資料として、そういうふうな形で書いてありますよという資料で渡すのか。

事務局：決算認定が、9 月議会の中で認定を受けますので、あくまでも推計値と言わざるを得ませんが、パブリックコメントでは、言葉を変えるということで行きたいと思います。

委員：(水道事業ビジョン) 素案の 11 ページ、ここにある職員給与費、県平均や全国平均よりも低いというところは、少ない職員で仕事をしているのではと推測します。

一方で、36 ページの収支計画の人件費、令和 7 年度予算値に令和 16 年度まで、賃金上昇率 1%を見込むというところで、人件費がどんどん上がっているこんなときに、職員の賃金が少ないので大丈夫だろうかと、心配として意見したところです。

もう 1 つ、未加入者の加入、どうやって増やしていこうかというところ、あと笹川浄水場からの良質な水対策がされているというところで、良質であることの PR、このビジョンに示せないのかなと思っている。

事務局：人件費につきましては、この 1%の推計につまして、内閣府がこういった会議を実施しておる中で、1%の見込みというのが出ておりますので、そちらで推計させていただいた。

加入促進につきましては、いわゆる入ったまま使用されていない方がいますので、そちらにつきましては、個別の通知を送らせていただき、使いませんかというところで、加入というより、使用を促しているというところ。

あと、分譲地とかで配水管を引けないというところには、補助金制度もありますので、そちらの活用の方もPRをさせていただきたい。

水質については24ページをお願いします。

安全という面、お客様が安心して美味しく飲める水道水の供給というところで水質検査の実施、東総広域水道企業団との連携というところで、水質検査の実施、水安全計画の策定について記載をさせていただいているところです。

委 員：財政計画で物価上昇率はどのくらい見て、この推計値を出しているのか。

事務局：0.9%で推計している。

委 員：何かの資料を根拠に0.9%としたのか、市独自か。

事務局：先ほどの内閣府の会議、そちらの推計値から。

委 員：話がずれてしまうかもしれないが、ある小学生が、学校の先生は、水道の水は飲むなと言っていたというのです。

縁があって委員をさせていただいて、旭市の水道は安全だになっていうのを再認識できた次第、東総広域水道企業団では、特殊な経過を行っている話もここで伺えて、本当に安心して飲める水道水なんだなあと。

子供の話なので、どこまで本当か分からないですけど、そういう話を聞いてもっと安全、安心の部分を市民にPRしていただけたらと思う。

事務局：第三次旭市総合戦略の中でも、安全、安心の水の供給、これを大前提にしていますので、ご指摘のあったお話、積極的にPRを今後して行きたい。

委 員：今の話、学校の場合は、全く間違いではないようにも思います。

なぜかという、学校の場合は屋上にタンクを設置している、そのタンクから常時水が循環して使われているときには、そんなにはならないですけども、夏休みなどで、子供たちが当分登校しない場合は、水が滞留してしまう。それで、当番で学校行きますと、先生これ臭くて飲めないよなど、水に対して違和感が出てくる。

だから、ある都市では、そういうような施設を造らずに、直結した状態で水道を利用するように、学校の施設の整備をしていくという考えもあるようですけども。旭市の場合は、どうしても屋上にそういうようなタンクを設ける。その辺が、先生と子供たちの会話に影響しているのではないかな。

委 員：受水槽関係の水質管理。

夏休みになると(学校の)水道水の使いが少なくなるので、回転が鈍くなる。そうすると、塩素が飛んじゃうだとかの問題が出てくる。

その辺は、それぞれ管理している方々に気を付けてもらって、基本的に東総広域水道企業団の水については、水道法の水質基準というのがありますから、それについて管理されているということで安全な水である。

供給する側としては、そこまでの水質はきちっと確保されていますよ。

委員：埼玉県八潮市で、老朽化による下水道管破損による陥没事故がありました。事故は予測できませんけれど、旭市にはこのような大掛かりな下水道管があるのか。

あるとしたら、道路の下にある下水道管、耐震化が必要な状況だと思う。

事務局：八潮市ほどの大きなものはない。

耐震性、所要の年数が経過しているものもない。

現在ああいった陥没事故ですとかはありません。

処理施設の方の耐震化が今、課題になっておりますので、午後から下水道事業の運営協議会の中で、いろいろと話が出るかと思う。

管理については、日常的に職員の点検ですとか、巡回しています。

委員：耐震化計画の19ページ、新事業のスケジュールの中に、令和7年度から令和16年度までの計画が平均で年間約11億円の耐震化工事を行いますと、書いてあるけれど、この財源はどこから持ってくる。

事務局：料金収入と国からの補助金、企業債などというところです。

議長：委員さんの質問ですが、何か気が付いたことがあれば。

充実したビジョンにしたいと思いますので、よろしくお願いします。

ここで、終わりとさせていただきます。

ありがとうございました。

(全員了承)

5) その他

特になし

6) 閉会